

清掃事業概要

令和7年度



ごみ減量推進キャラクター

和歌山市

和歌山市民憲章

わたくしたちは、和歌山市民であることに誇りをもち、平和で豊かなまちをつくるため、市民の心がまえを定めます。

- 1 自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- 2 互いにたすけあい、希望にみちたまちをつくりましょう。
- 3 きめごとを守り、人に迷惑をかけない市民になりましょう。
- 4 仕事に誇りをもち、たくましい市民になりましょう。
- 5 教養を高め、視野の広い市民になりましょう。

和歌山市市歌

一、これ南海の鎮めぞと

南龍公が志

潜めし城は旧りにしを

城下の意気ぞ新なる

星移り物変わるとも

常若の市 和歌山

二、見よ紀の川の川口に

民衆起ちて封建の

夢吹き払い新時代の

都市に産業興りたり

星移り物変わるとも

常若の市 和歌山

三、豈煤煙を誇らんや

風光ゆかしこの辺り

鶴鳴き渡る和歌の浦

高野の山も近くして

星移り物変わるとも

常若の市 和歌山

佐藤春夫 作詞
山田耕筈 作曲

はじめに

廃棄物を迅速かつ適正に処理し、快適な生活環境を維持することは、地方自治体に課せられた重要な責務です。

近年、環境問題への意識の高まりと社会経済情勢の変化に伴い、廃棄物の排出量は減少傾向にあります。今後、一層のごみ減量と資源の有効活用を促進する必要があることから、廃棄物の処理だけでなく、地域コミュニティとの連携強化や環境の保全等も視野にいたれ、より広域かつ総合的視点からの取組みが求められています。

和歌山市においては、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に向けた循環型社会を目指し、廃棄物の排出抑制、再使用、資源化による減量化の促進、それでもなお循環的利用が行われないものに対する適正処理の確保、更に廃棄物処理事業の効率化を進めており、老朽化した施設の改良等、ソフト・ハードの両面にわたり長期的視点に立ったごみ処理の推進を図っています。

廃棄物行政を取り巻く情勢は常に変化しており、それに合わせた事業の展開を行い、市民サービスの向上を図りながら、循環型社会の実現を目指し、市民、事業者、行政の三者が一体となり、ごみ減量の取組みと効率的な資源分別の推進を協働していく必要があります。

ここに、令和7年度版清掃事業概要を作成しましたので、参考資料として活用いただければ幸いに存じます。

環境部



和歌山市ごみ減量推進キャラクター「リリクル」

スリーアール
3 R 推進によるごみ減量をより市民の身近なものにするために、親しみやすい広報キャラクターとして誕生した。名前は「リデュース」の「リ」、「リユース」の「リ」、「リサイクル」の「クル」から「リリクル」とした。

スリーアール
3 R : リデュース (ごみを減らす)
リユース (もう一度使う)
リサイクル (分けて資源に使う)

の3つの取組により、ごみの減量、資源分別を推進している。

青岸エネルギーセンター（ごみ焼却場）

所在地：和歌山市湊 1342 番地の 3

- ・敷地面積 約 10,000 m²
- ・着工 昭和 57 年 10 月
- ・竣工 昭和 61 年 3 月
- ・事業費 8,636,000 千円



青岸クリーンセンター（ごみ焼却場）

所在地：和歌山市湊 1342 番地の 39

- ・敷地面積 約 7,000 m²
- ・着工 平成 6 年 10 月
- ・竣工 平成 10 年 3 月
- ・事業費 18,120,000 千円

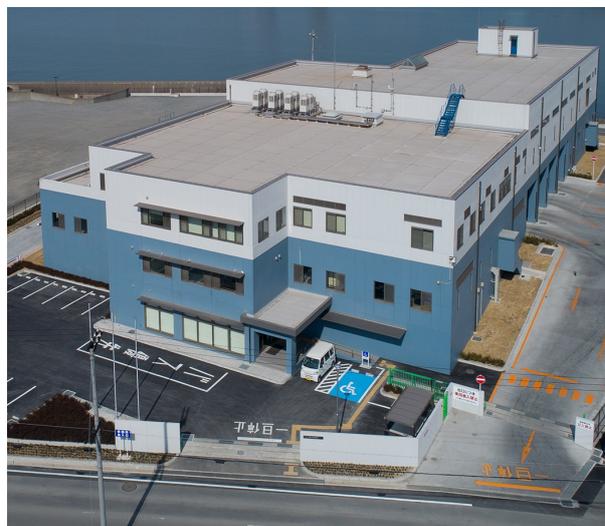
※ごみの減量により令和 2 年度に休炉。令和 3 年度からは、ごみピットを活用し、青岸エネルギーセンターの焼却炉点検中のごみ受け入れ中継施設としています。



青岸汚泥再生処理センター（し尿処理場）

所在地：和歌山市湊 1342 番地

- ・敷地面積 約 9,000 m²
- ・着工 平成 24 年 12 月
- ・竣工 平成 29 年 3 月
- ・事業費 約 6,400,000 千円



青岸ストックヤード（資源選別施設）

所在地：和歌山市湊 1342 番地の 8

- ・敷地面積 約 6,855 m²
- ・着工 平成 29 年 6 月
- ・竣工 平成 30 年 4 月
- ・事業費 約 558,000 千円

